

今こそ農家が、多くの国民に
真実を伝えていかなければ

兵庫・今井和夫

マスコミが流す情報は 巨大輸出企業の論理ばかり

年末に『TPP 反対の大義』（農文協）を読ませていただきました。とても勉強になりました。企画をされた農文協、執筆者の先生方には心より敬意を表します。

私は兵庫県の中山間で自然卵養鶏を営む者で、もちろんTPPには反対、食料自給率をもっと向上を、と思っています。しかし、テレビ・大新聞等のマスコミではこれとは逆の論調がまかり通っています。残念ながら、この『現代農業』も『TPP 反対の大義』も読者数は国民全体から見ればごく少数でしょう。

何とか、真実をより多くの人に知ってもらう方法は作れないでしょうか。マスコミが流す情報は巨大輸出企業の論理ばかりです。農業に関しても「強くなるには規模拡大しかない」「やる気のない農家には補助を出すな」「過保護が日本農業を衰退させた」…。

規模拡大はしたくてもできないのが現実

私の住む町（人口約四〇〇〇人の中山間地）の総耕地面積は四一八ha。田畑の総枚数は六八三〇枚（圃場整備はもちろん済んでいます）で、一枚の平均は六・一a。財界等の主張「少なくともEU並みの程度に」というのは一戸当たりだいたい一六haですから、わが町に当てはめると一軒で二六六枚。できるはずがありません。自民党時代にいわれていた四ha／戸にしても六五枚。規模拡大をしたくてもできないから、他で稼いでそれをつぎ込んで小さな田畑を維持してきたのです。やる気があるからそうまでしてきたのです。

現実とは正反対のことばかりがマスコミで流されています。私の知人なども「農家はいいよね、補助金いっぱいもらうから」とか、「農業でもちゃんと言えれば食べていけるんでしょ」とか、一輸出をねらったらいんと違うの」とか平気で言ってきます。

伝えるための方法いろいろ

『TPP 反対の大義』などに書かれてあることをいかに、わかりやすく多くの国民に知ってもらうか。伝えられるか。それがこれからの最大のテーマだと思っております。

たとえば、都会の電車の車内広告の見出しに「食っていけない農家の現実」「規模拡大論の欺瞞」「国益VS農業保護」の論調のわな」「アメリカの食料戦略」…、そんな文字を並べる方法はないでしょうか。

あるいは、小沢一郎も秋葉広島市長も、マスコミの記者会見は拒否してネット上で会見しました。賛否はあるでしょうが、今、マスコミの偏向性が少しずつこうして認識されつつあるなかで、ネット上で、農についての真実を流す番組を作っていくとか。

あるいは、そうは言ってもまだまだ紙は強い。わかりやすく真実が書かれたチラシを全国の農産物直売所で配る。あるいは、有志で新聞広告に折り込みとして入れるとか。全国同じ日に同じチラシがあちこちで配られる。それも毎月新しい内容で！ なんてことになれば、かなり影響力が出てくるのではないのでしょうか。

脱・競争の呪縛

農家みんなで訴えていこう

今まで、私達は、知らず知らずに競争させられてきたと思います。成功している事例を見せられ「こうすればできるのだ」と。しかし、それは「特産品」であったり、「特別な買い手に高く売る」ことであつたり。

でもよく考えてみれば、これは構造的に一握りのものにしか成り立たないことだったので。特産品なんて、全国すべての町村数だけあるはずがありません。隣町が同じことをやり始めたら困るようなことを競争させられてきたのではないのでしょうか。そうやってバラバラにされてきたのではないのでしょうか。

全員が一番にはなれないのです。「一番にならなかつた者が悪い、自己責任」ではなく、「それなりに頑張ればみんな共に生きていける」。そうでないとダメなんです。

「よそがやってないことは何だろう」。そういう発想は、ともすれば「自分さえよければ」の道であり、結局お互いの首の絞め合いにもなってきたのです。それを見透かされて、マスコミには言いたい放題言われっぱなし…。

これをきつかけに、もう一度、農民は「国民の食料を担う存在」として誇りを取り戻そうではありませんか。そして、JAもどこの団体も、広く手をつないで頂いて、いかにして国民に情報を流していくか。それを模索する組織かセンターか、何かを作ってもらえないでしょうか。農文協さんに言い出して頂いてもいいかもしれませんが、それぞれができることは小さいですが、どこかが

それをまとめて頂いて一つの方向に向
けてもらえれば、きつと大きなことが
できるのだと思います。

そして、これは実は、農業の話だけ
にとどまるものではありません。都会
の人の暮らしに余裕がなくなってきた
のも、実は根っこは同じだと思いま
す。TPP参加をたくらむ者も、労働
者を搾り取り使い捨てる者も、正体は
同じです。そこるところからわかりや
すく説明していかなければ、都会の人
の心には入っていかないでしょう。暮
らしに余裕がなくなれば、やはり安い
ほうがいいと思ってしまう。ピー
トだけしテレビで「TPPで牛丼が
五〇円になるかも」と言っていました
が、そのほうがいいと思うのでしょうか。
すでにさまざまな方が努力されてい
ることとは思いますが、皆さんの志が
大きな力になることを願ってやみませ
ん。

(兵庫県宍粟市)

TPP 反対の百姓座談会に参加しませんか

山形・菅野芳秀

TPPという正体のよくわからないこの妖怪がわたしたちに襲いかかろうとして
います。これが実行されたら、米をはじめとして畑作物、乳製品から沖縄のサト
ウキビまでほとんどが輸入物に置き換わり、食料自給率は14%まで低下すると
農水省は試算しています。これは地域の崩壊を意味し、人が暮らし続けることが
できるバランスのとれた社会としての「日本」の終わりを意味します。マスコミ
の一部は「牛丼が200円になる」とはしゃいでいますが、労働力も自由化され、
際限のない賃金水準まで下がりつづけ、安い牛丼すら食えなくなることを覚悟し
ておくべきでしょう。非正規社員は増えつづけ、都市に失業者があふれることに
もなりかねません。

いったい、誰のための自由化でしょうか。私たち農民はもとより、多くの人た
ちにとって、なんのメリットもありません。どうか、みなさん、この愚挙、この
暴挙を阻止するために、私たちと共に立ち上がってください。

2月末に全国の百姓が東京に集まり声を上げます。多くのみなさんの参加を呼
びかけます。

■座談会 当たり前に生きたい、ムラでも、マチでも TPPでは生きられない!

■日 時 2月26日(土) 午後1時~5時

■場 所 明治大学リバティータワー(東京都千代田区)

■主 催 TPPに反対する人々の運動、共同代表・山下惣一(佐賀・百姓)、
菅野芳秀(山形・百姓)、天明伸浩(新潟・百姓)

■問い合わせ先 平和フォーラム事務局内 市村まで TEL03-5289-8222